

とうふねこ座：市川雅子 画

まちがいさがし クイズ

問題

左右の絵を見くらべて、
まちがいを8カ所見つけてください。

応募方法

ハガキまたはファクスに、①答え
(右の絵に○をつける)・②住所・③
氏名(ふりがな)・④年齢・⑤電話
番号・⑥広報紙の感想、ご意見など
を書いて応募してください。なお、
当選者のお名前を広報がまごおり3
月号に掲載しますので、ご了承ください。

送り先

〒443-8601 旭町17番1号
企画広報課「クイズ」係
FAX66•1190

応募締切

1月17日(月)当日消印有効

プレゼント

全問正解された方のうち、抽選で
10人の方にクオカードもしくは
ユトリーナバーデゾーン無料利用
券をプレゼントします。なお、賞
品は3月初旬に郵送します。



「鼠小僧次郎吉」(神明町)

江戸時代末期の一八三〇年代、天保年間のお話。

何年かは分からないが、当時西の郡と呼ばれていた蒲郡に江戸から一人の老婦人がひっそりと帰ってきて暮らしはじめた。三十五、六年ぶりのことだ。家の裏手には、うっそうとした藪が広がっていた。その藪の中に、名前も戒名も書かれていない粗末な墓らしきものがある、と近くの住民が気づいたのは、それからしばらくたってからのことだった。

老婦人の名を、かんといった。ある日のこと、道でかんとすれ違った住民が尋ねた。「藪の中にある墓は、どなたをご供養なさっているんですか」。かんは一瞬、驚いた様子を見せて、顔をくもらせた。しばらくたって小さな声で「倅せがれ」とだけ、言って立ち去った。

「がまごおり風土記」(伊藤天章著)には、文政期に江戸市中の大名屋敷に忍び込み、天保三年に三十八歳で処刑された鼠小僧次郎吉は蒲郡の生まれだと書かれている。母親のかんは、処刑のあと一握りの遺髪を手に蒲形村に帰り、墓をつくり冥福を祈った。この墓が後に委空寺(神明町)に移されたという。

次郎吉の生家は現在の神明町。生後間もなく父の定七は江戸に旅立ってしまう。一、二年後、母のかんは、定七を追って幼い次郎吉を背負い上京した。お墓のいわれとともに、このような話も代々語り伝えられている。真実はともかく、鼠小僧は歌舞伎や小説、映画に義賊として描かれている。地元の人たちには、ちよっぴり自慢だったに違いない。



◆11月号の答え

11月号クイズまちがいさがし
(石観音)の当選者
応募総数67通
正解者66人
当選者 敬称略・50音順
三谷町 神谷眞宣
三谷町 小久保大助
竹谷町 神納ゆたか
神明町 杉浦重徳
形原町 杉山都代子
形原町 富田七海
鹿島町 中道千恵子
三谷町 久田幸子
平田町 前田和奏
三谷北通 松山義雄
おめでとうございませう。賞品は1月初旬に発送します。